

予算委員会第3分科会質問要旨

2023年2月20日
立憲民主党 階 猛

(答弁者はすべて雨宮日銀副総裁)

1. 間もなく退任を迎えるにあたっての所感

2. 黒田総裁下の10年間の総括

- ①「2年」で2%の物価安定目標について、白川総裁下では徹底拒否していたことは、2013年4月の「異次元金融緩和」を決定するまで知らなかったのか
- ②「2年」で2%の物価安定目標を掲げたことは、この10年の結果からすると妥当だったか
- ③物価を上げれば賃金も上がり景気もよくなるという「リフレ派」の考え方は、この10年の結果からすると妥当だったか
- ④「異次元金融緩和」は2%の物価安定目標を「2年」で達成するための手段であり、達成のために「できることは何でもやる」としていた。目標が達成できないことが明らかになった時点で、手段を改めて「異次元金融緩和」を通常の金融緩和に戻すことは考えなかったのか
- ⑤2014年に「量的質的緩和」を拡大し、2016年に「マイナス金利」や「イールドカーブコントロール」を導入して今日まで継続した結果、株式市場や債券市場に歪みが生じ、金融機関の収益低下とリスク資産の増大、急激な円安を招いたが、この点について反省はないか
- ⑥異次元金融緩和で日銀が超低金利で国債を大量に購入し続けた結果、法律上禁止されている日銀による国債引き受けが事実上生じた。安倍元総理に「日銀は政府の子会社」と言わしめ、「財政ファイナンス」と呼ばれる状況を招いたことへの反省はないか
- ⑦バブル経済の生成と崩壊を招いた金融政策の教訓は、「異次元金融緩和」に生かされたのか

3. これからの日銀のあり方

- ①金融政策を正常化する過程では、保有国債等から得られる収益を当座預金に支払う利息が上回る「逆ザヤ」に陥り日銀の収益が相当悪化すると思われる。日銀の財務体質の悪化をどのように防ぐか
- ②上記の逆ザヤ問題が一層深刻化することを避けるためにも、市場実勢をかけ離れた超低金利で無制限に国債を買い続けるイールドカーブコントロールは更なる見直しを行い、実質賃金の上昇が見込めるようになったら終わるべきではないか
- ③日銀が大量に保有する国債やETF等は今後どのように処理するのか
- ④展望レポートの物価、経済の見通しが金融政策を正当化するための恣意的な数値になっていると受け取られないよう、より客観的な根拠を示すべきではないか

以 上